

～ひだまり～

3年1組 学級目標

サーティーワン

3 / “N” ICE クリーム

～認め合う 34人の味～

第3学年だより

第 15 号

作文特集号「運動会を終えて」～1組～

熱い運動会から早1週間。今年度もこれまで同様「作文」に取り組んでいます。第2回目となる本号は、色別優勝の「1組」です。数ある優秀な作品から選び抜かれた2名の作品を、どうぞお読みください。

「最高の最後の運動会」

ムカデで1位を取れた瞬間、私は泣いていた。嬉しくて、嬉しくて、涙が止まらなかった。男子がゴールテープを切った後、みんな「やりきった」という感情が顔に出ていた。

初めての練習のときは、とても上手くいった。余裕だと思っていた。でも、2回目、3回目から、上手いかなくなった。縄の調節、掛け声の練習、足の歩幅…。何回も確認した。それでも上手いかなかった。みんなの気持ちが合わさってないと思った。

練習終わり、友達と、なんでダメだったのか、毎回話した。「並び順を変えよう。」「掛け声を変えない?」何回も話した。すると、段々上手いき、予行練習では1位を取ることができた。1組は1位を取れたことにとても喜んでいて。でも、自分は、あまり嬉しくなかった。予行は予行で、本番じゃない。本番で1位を取らないと意味無い。そう思っていた。

予行で1位を取ったことで、他のクラスはどんどん本気を出してきた。みんなスピードがどんどん速くなっていく。1組もスピードを上げないとダメなんじゃないか。そう考えた練習で、スピードを上げてみた。転んだ。先生は「スピードはこのままで、転ばないようにした方がいい。」と言った。確かに、他のクラスはとても速いがミスもしていた。試しにその作戦でやってみると上手くいった。あとは、みんなの気持ちのみ。さあ、どうなるかな、本番。

ついに運動会当日。全員リレーでみんなはもう疲れていた。大ムカデ、大丈夫かな。心配だった。でも、1組ならいける。大丈夫。みんなの顔を見ると、そう言ってくれている気がした。

スタートの合図が鳴った。「せーのっ!」「1・2・3・4! すぐる! すぐる!」大ムカデが始まった。みんな声が出る。いい感じのスタートだった。このまま、このまま。そう思いながら走った。苦戦しているクラスもあった。1組はノーミスで進んでいた。さすが1組。できてる。

男子にバトンパスをした。あとは男子に任せた。必死に繋いだバトン。男子の姿を見ているとき、今までの苦しかったことが頭をよぎった。男子がゴールテープを切った。ムカデで1位を取れた。その瞬間、わたしは泣いていた。嬉しくて嬉しくて、涙が止まらなかった。

「VICTORY！」

「うわっ！ もうジャージ登校じゃないんだ…。」ブレザーを着ていた妹を見て思わずつぶやいてしまった。私たちにとって最後の、瑞三での運動会が終わった。正直すごくさみしい。でも、本当に最高だった…。そう言えば、解団式で「まだ少しさみしい」って、先生も赤いタオルを持ってきてたな…。それくらいみんなが団結して、全力で楽しめた運動会だった。

私は今年、赤団だった。最初に「赤団」として1年生から3年生までが顔を合わせたのは結団式だった。その時は、まだ応援の声も小さくて、恥ずかしがっているような状態だった。でも、練習を重ねるにつれて、みんな恥ずかしがっている場合じゃなくなってきたのだと思う。応援の声が段々と大きくなって、予行練習のときには最初の何倍も大きくなっていった。赤団の「絆」が深まった気がして、私はすごく嬉しかった。

そして迎えた運動会当日。どのクラスも、先生達も「絶対に優勝しよう」と燃えていた。もちろん、私のクラスもそうだった。

競技が始まると、今までの何十倍も大きな声が校庭に響いていた。私のクラスは、応援コールをみんなで練習して、みんな全力で応援した。

もう一つ、みんなの絆が深まったことと言えば、大ムカデだ。最初の練習では息が合わず、みんなの気持ちもまとまらなかった。だけど、それが私たちをひとつにするカギになった。もっと上達するために、何度も話し合って、たくさん練習して、いっぱい転んで、並び順を変えたりもしてみた。みんなでやれることは何でもやってきた。

その結果、なんと1組が1位を取ることができた。あのときは、みんな清々しい顔をしていた。涙を浮かべている人もいた。あの光景は今でも忘れられない…。

そして大事な結果発表。大ムカデやリレーを頑張ってきた結果、3学年の部では準優勝を取ることができたのだ！ そして色別は…なんと赤団が優勝だった！ 本当に嬉しかった。絶対に、このメンバーじゃないと優勝できていなかったと思う。色別リレーや綱引き、そして応援をみんなが全力で頑張った。私も、酸欠でフラフラになるくらい声を出した。そして、ムカデや綱引きのとき、横で声を出して、最後まで一緒にいてくれた先生も、大切な赤団のメンバーであり、私たちをここまで支えてくれたコーチのような存在でもある。そんな仲間たちで挑んだ奇跡の運動会だった。

私自身を成長させてくれた運動会でもあった。サブスローガンの「共に最高の自分へ」という言葉がしっかり理解できた。あまり話したことがない友達とたくさん話したり、係の仕事にもしっかり取り組んだり。周りから見たら簡単なことかもしれないが、私にとってはすごく成長できたことだ。これらは、これからの行事にも生かせるはず。共に成長し、共に情熱を謳歌した最高の運動会。みんなの心に、一生涯残り続けるだろう。